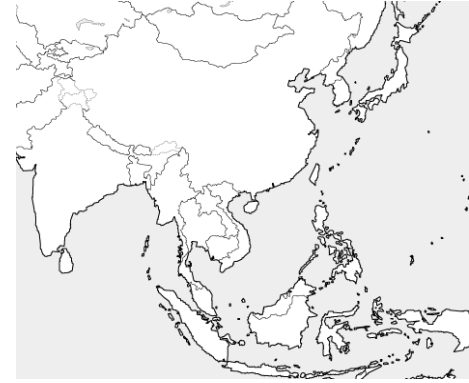


**New! 『東アジア・ニュースレター』 2018年2月2日号**  
——東アジアのビジネスに関心のある方のための情報誌——  
(毎週金曜日配信 計4回総集編)

執筆：前田高昭 (国際金融ジャーナリス)



**中国** 国家統計局は昨年の経済成長率が6.9%に拡大したと発表した。これは2016年の成長率6.7%を若干上回り、2011年から始まった成長減速の流れを変えたとされ、要因として輸出と小売り、不動産市場の好調が挙げられている。ただし、中国経済の四半期数字はあまりにも順調に推移しているとして信頼性に疑問が付され、一例として地方州が中央政府から目標の数字達成の圧力を受けていると報じられている。

**台湾** 政府は電力が慢性的に不足するなか、原子力発電の段階的解消を打ち出し、風力や太陽光発電を主体とする野心的な再生エネルギー計画を推進しようとしている。これには厳しい自然環境を乗り越え、巨額の資金を投入する必要がある、前途は多難とみられている。

**韓国** と日本は歴史問題でギクシャクしているが、それは古い世代の考え方であり、両国の若者層はこうした考え方とは一線を画して新たな関係を築こうとしていると有力メディアが報じる。日本の漫画や映画、ドラマ、小説などが韓国の若者の心をとらえ、また韓国ポップが日本の若者を魅了していると述べ、観光客も両国間で急増しており、そうした交流の拡大が今後の両国関係の改善につながる予兆になるとの見方を伝える。

**北朝鮮** 政策について中国の専門家の中で活発な論議が交わされている。中国では外交政策の論議が活発に行われることはほとんどなく、お定まりのスローガンや教条的な議論が繰り返されるだけだが、北朝鮮政策だけは奇妙な例外になっているとメディアが伝える。最近学者や専門家らが、これまでは異端とされてきた見解を公にするのを恐れなくなり、政府内部でも北朝鮮に対するタカ派が勝利してきているようだと言及する。

**東南アジア** 関係では、マレーシア中央銀行が政策金利を0.25%引き上げて3.25%とした。3年半ぶりの利上げとなる。背景として、18年に入っても経済成長が続き、昨年平均3.7%だったインフレ率も、18年はそれよりも低い平均値で推移すると見込まれることを挙げる。追加利上げの有無や時期については、インフレや経済成長が落ち着いているなか、エコノミストの間でも見方が分かれている。

**インド** 社会には中国のような中間層が育っていないとメディアが指摘する。原因として政治の失敗を挙げ、増大する格差や劣悪な教育制度などが、製造業を発展させて雇用を拡大していった中国とは比較できない状況にインドを押しやったと分析する。企業は政治に頼らず戦略転換などの自己努力で克服すべきだと主張している。

## ● 無料購読申込みは以下アドレスより

[https://www.babel.co.jp/osaka/east\\_asia.html](https://www.babel.co.jp/osaka/east_asia.html)

東アジア・ニュースレターは、大阪 **Trans Media Center** (翻訳・ドキュメンテーションサービス — 多言語翻訳 / リーガル・特許翻訳を専門) が発行しております。

## ● 翻訳のご用命は以下へ

<http://www.babel.co.jp/osaka/>